

「人間科学概論(入門)」の授業内容についての提案

人間科学の学問的位置づけ(人間科学とは何か)を明らかにする授業の試み

常磐大学:長谷川幸一

「人間科学概論(入門)」のカリキュラム上の位置づけと担当者の“大きな負担感”

●「人間科学概論(入門)」は、人間科学部・学科の理念・ポリシーとカリキュラム体系をつなぐ重要な位置にあると考えられる。

☞「大学評価」において、学部の理念・ポリシーと学科の構成・カリキュラム体系との整合性が担保されなければ、さまざまな教育上の工夫と実践が意味のないものになりかねない。



- ただ、個人的な経験に基づく推測であるが、多くの大学では、それらの科目の担当者および運営方法の決定に苦慮し、担当者は大きな負担を感じるのではないだろうか。
- オムニバス形式ではなく、計15回を一人で担当し、授業シラバスを考え実行するには、多くの時間と労力を要する。

常磐大学人間科学部の「人間科学概論」

常磐大学「人間科学概論」の運営方法

- 1983年の設立当初、人間関係学科(心理学専攻・社会学専攻・教育学専攻)とコミュニケーション学科の2学科であったが、40年の間に複数回の改組を行い、現在は心理学科・現代社会学科・教育学科・コミュニケーション・健康栄養学科の5学科。
 - 「人間科学概論」はオムニバス形式ではなく、5学科からそれぞれ担当者が出て、各学科ごとに運営されている。
 - シラバスの【授業の概要】、【学修の到達目標】、【成績の評価方法・基準】、および【授業計画】の基本的枠組は全学科共通。ただし、各回の内容は担当者により異なる。
- ・人間科学の学問的位置づけ(3回)
 - ・人間像(観)の変遷(3回)
 - ・人間と科学技術(4回)
 - ・人間と人間集団(4回)
- 3年次配当

常磐大学「人間科学概論」シラバス抜粋

【授業の概要】

人間とは何かを探求する諸学問の研究成果を学部3年において再度捉えなおし、「人間科学」の形成過程とその学問的位置づけを考察する。

【学修の到達目標】

学部のディプロマ・ポリシーに基づき以下の技能を習得する。

① 人間科学の学問的位置づけを説明できる。

(👉 到達困難な目標?)

② 異なる「人間像」を偏りなく理解・説明できる。

③ 人間社会に関する課題を多面的に考える。

第1回 授業 (導入回)の概要

👉 戦後日本における
「人間科学の曖昧さ」
を検証する
(人間科学の現状を
理解し、打開策を考
える⇒第15回までの
宿題)

(1) 文部科学省「系・分野・分科細目表」⇨「人間科学」という学問分野は存在しない(「社会学」・「心理学」・「教育学」は「社会科学」に分類されていること)を確認する。

(2) 文部科学省「学科系統分類表」(『学校基本調査』付属資料) ⇨教育組織としての「人間科学部」の位置づけが曖昧であることを確認する。

(3) 「人文・社会科学」という表記が学問分類上の混乱を招き、「人間科学」の学問的位置づけの曖昧さを招く要因の1つとなっている。「人文科学」と「人間科学」との関係をもとに理解するか考える(cf. フーコー『言葉と物—人文科学(人間科学?)の考古学』)。

(4) 「人文学」・「人文科学」・「人間科学」に対応する英・仏語の解釈が多様(不統一)であることを示す(cf. 京都大学人文科学研究所「なぜ“Humanities”なのか?」)。

(5) 「人文学」と「人文科学」との違いを考えるには、「科学」の意味を考える必要があるが、明治生まれの日本語である「科学」とは「分科(百科)の学」という意味であり、「science」の訳語ではなく、「sciences」の訳語であることを示す。⇨「人間科学」の曖昧さの淵源。

文部科学省における「人間科学」の位置づけ①

：「系・分野・分科・細目表」抜粋＝[研究分野]としての位置づけ

系	分野	分科	細目	研究分野	
人間科学	社会科学	社会学	社会学	社会学	
			社会心理学	社会心理学	
			社会心理学	社会心理学	
		心理学	心理学	心理学	
			心理学	心理学	
			心理学	心理学	
		教育学	教育学	教育学	
			教育学	教育学	
			教育学	教育学	
		健康・スポーツ科学	健康科学	健康科学	健康科学
				健康科学	健康科学
				健康科学	健康科学
	スポーツ科学		スポーツ科学	スポーツ科学	
			スポーツ科学	スポーツ科学	
			スポーツ科学	スポーツ科学	
	健康・スポーツ科学		健康・スポーツ科学	健康・スポーツ科学	
			健康・スポーツ科学	健康・スポーツ科学	
			健康・スポーツ科学	健康・スポーツ科学	
	総合・新領域	総合科学	総合科学	総合科学	
			総合科学	総合科学	
			総合科学	総合科学	
		新領域	新領域	新領域	
			新領域	新領域	
			新領域	新領域	
総合・新領域		総合・新領域	総合・新領域		
		総合・新領域	総合・新領域		
		総合・新領域	総合・新領域		

⇒2000年代に入って「人間科学部」の主要な学科の1つとなった「健康・スポーツ科学」は「総合・新領域」に分類。

研究分野としての「人間科学」は存在しない

⇒社会学・心理学・教育学は「社会科学」に分類されている

⇒「人間科学部」に所属する研究者(とくに若手の研究者)は、「研究分野としての人間科学」に関心を寄せることは稀であろう。



「人間科学概論(入門)」の担当者を探すが難しい

文部科学省における「人間科学」の位置づけ③ :「学科系統分類表」抜粋＝「教育組織」としての位置づけ

学科系統分類表(抜粋)

1 大学(学部)学科番号

大分類	中分類	小分類(学科)		
人文科学	文学関係	文学	言語学	日本語学など
	史学関係	史学	地理学	歴史社会学など
	哲学関係	哲学	心理学	宗教学など
	その他	人文学	人文科学	心理・社会学など
		人間科学	行動科学	人間学など
社会科学	法学・政治学関係	法学(類)	法律学	私法学など
	商学・経済学関係	商学	経済学	スポーツ経営学など
	社会学関係(社会事業関係を含む)	社会学	社会福祉学	人類学など
		人間関係学	人間科学	社会心理学など
	その他	政経学	自治行政学	情報システム学など
健康福祉科学		現代こども学	キャリアデザイン(学)など	

(出典)文部科学省, 2005, 「学科系統分類表1 大学(学部)」(2023年11月17日取得,
https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/05122201/006/004/001.htm)

平成17(2005)年度「学校基本調査」の
付属資料「学科系統分類表」抜粋

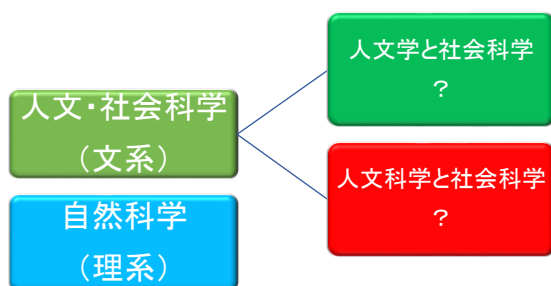
1991年の「大学設置基準の大綱化」以降, 学部
のあり方は多様化(混乱)を極めている。

*「人間科学部」は「大綱化」による所謂「学際
学部」の大量出現以前から開設されていたが,
教育組織としての位置づけが曖昧であると言え
る。



文部科学省のサイト内で, 「人文・社会科学」に
ついて2つの異なる解釈が存在することは問題
ではないのか?

「人文・社会科学」という表記についての2つの解釈 👉「人間科学」の学問的位置づけを左右する



◆わが国では、いわゆる「**文系**」の学問を「**人文・社会科学**」と表現することが多く、文部科学省のホームページでもこの表現が用いられ、しかも、**その解釈に矛盾が見られる**。

◆文部科学省以外においても、「人文・社会科学」に関しては、それを「**人文学**」と「**社会科学**」とする理解と「**人文科学**」と「**社会科学**」とする理解の2つのケースがある。

👉**この場合、「人文科学」と「人間科学」との関係**をどのように整理するのか？

ここで考えてみたいのは、「**人文学**」「**人文科学**」「**人間科学**」にあたる欧米語は何かという点。

“humanities”

“human sciences” (英)

“sciences humaines” (仏)

人文科学の組織の英語表記の例

京都大学 **人文科学** 研究所

Institute for Research in **Humanities**, Kyoto University

京都大学人文科学研究所, 2023, 京都大学人文科学研究所ホームページ, (2023年11月12日取得,
<https://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/>) .

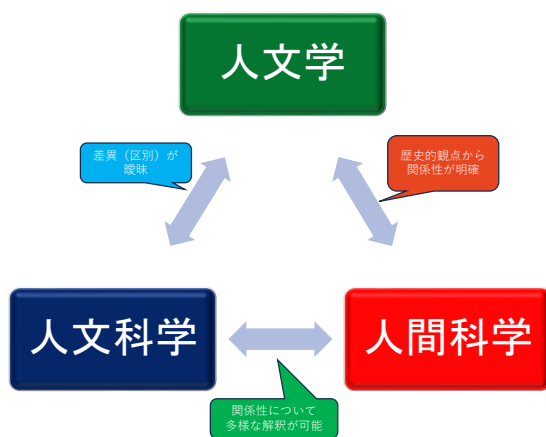
九州大学大学院 **人文科学** 府

Graduate school of **Humanities**, Kyushu University

* 九州大学 文学部・大学院人文科学府・大学院人文科学研究院のホームページ
には「**人文学**の知よ、この丘に集まれ。」というスローガンが掲げられている。

九州大学大学院人文科学府, 2023, 九州大学大学院人文科学府ホームページ, (2023年11月12日取得,
<https://www2.lit.kyushu-u.ac.jp/en/>) .

人文学・人文科学・人間科学の位置づけ



19世紀西欧では、「第2次科学革命」による学問の専門分化と制度化が生じ、それまで単数で用いられることが多かった「science」が、複数の「sciences」で用いられることが通例となり始めた。

日本語の「科学」とは、まさに19世紀後半(明治期)に生まれた「sciences」の翻訳語であり、

「分科の学」を意味する。



科学は“science”の訳語ではない！

(野家 2008: 36-8)

「人文学」と「人文科学」という2つの言葉の違いが重視されずに用いられているのは、この点が見逃されているからではないのか？

このことは、「人文科学」と「人間科学」との関係の曖昧さにつながっているように思われる。

「人文科学」という術語こそが、いわゆる「日本ローカル」では？

「人文科学」とは、「人文学」(humanities)+「科学」(sciences)という意味？

フーコー『言葉と物—人間科学の考古学』

Les mots et les choses: une archéologie des sciences humaines
 (邦訳副題は人文科学の考古学)

- フーコーは本文中で、18世紀末から19世紀初頭に誕生した科学は、理性啓蒙期とは異なる意味での「人間」を認識対象としたが、それらと同じ種子から「危険な中間物」のような科学である「人間科学」(sciences humaines)が誕生したと述べている。
- ☛「心理学」、「社会学」、「文化史」、「思想史」、「科学史」
- さらに続けてフーコーは、「精神分析」、「文化人類学」、「構造主義的言語学」は近代的な歴史主体としての意味の「人間」を認識対象としてはいないと述べている (Foucault 1966: 355-85 = 1974: 365-95).

人文学・人間の科学・人間学・人類学・人間科学の用法についての私見

- ☛「人文科学」の存在によって「人間科学」の意味が不明確になる
- ☛将来「人文科学」という術語は使用されなくなるのでは？

日	人文学	人間の科学	人間学・人類学	人間科学
英	humanities	science of man	anthropology	human sciences
仏	---	science de l'homme	anthropologie	sciences humaines
独	---	Wissenschaft von Menschen	Anthropologie	Menschenkunde

第1回授業の要点と第2・3回授業の内容

□現在においても、「人間科学」に関する理解は曖昧なままであり、文部科学省のWebサイトでは、組織としての人間科学の存在は認識されているにもかかわらず、**学問分野としての人間科学は認識されていない。**



人間科学の学問的位置づけに関しては、各大学部局が自ら議論し、明確にすることが求められている。

【第2回と第3回の授業】

☞**歴史的な視点から「人間科学」の学問的位置づけを考える(人間科学史と社会学史・心理学史・人類学史との接点を明らかにする)ことの有効性を検討する。**

「人間科学概論(入門)」担当者の“大きな負担感”をもたらす要因: 定番の教科書がない!

著者	書名	発行年	出版社
水島恵	『人間科学入門』	1976	有斐閣
中島義明・井上俊・友田泰正	『人間科学への招待』	1992	有斐閣
常磐大学人間科学部編	『人間科学のすすめ』	1995	常磐大学
安西祐一郎他	『人間科学がわかる』	2001	朝日新聞社
滝内大三・田畑稔	『人間科学の新展開』	2005	ミネルヴァ書房
三井宏隆	『スタディーズ「人間科学」——後発学問のサバイバル戦略を考える』	2008	ブレーン出版

□一般に、教科書として使えるのは(私の知る限りでは)次のよう文献だと思われる。

1976 水島恵一編『人間科学入門』 有斐閣

1992 中島義明・井上俊・友田泰正編『人間科学への招待』 有斐閣

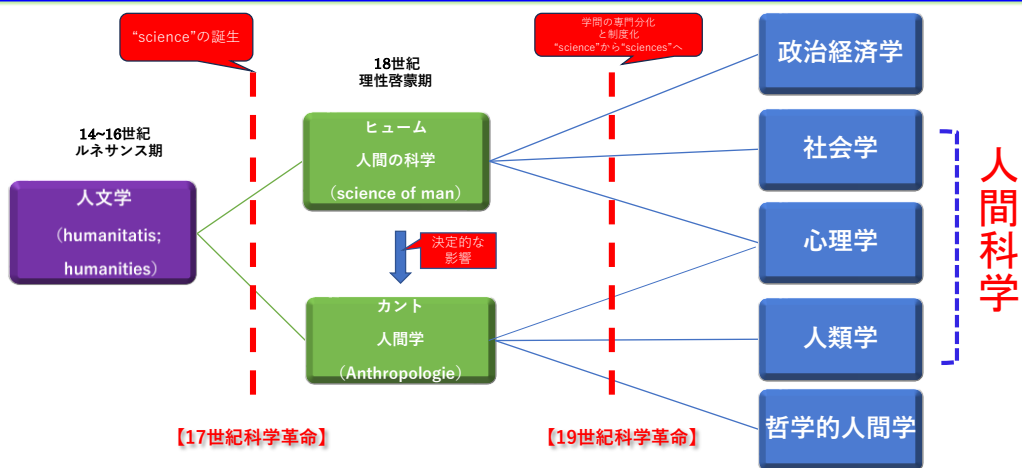
1995 常磐大学人間科学部編『人間科学のすすめ』 常磐大学

2001 安西祐一郎他『人間科学がわかる』 朝日新聞社

2005 滝内大三・田畑稔編『人間科学の新展開』 ミネルヴァ書房

2008 三井宏隆『スタディーズ「人間科学」——後発学問のサバイバル戦略を考える』 ブレーン出版

人間科学の歴史(ルネサンス期から19世紀まで)の図式的理解 :「人間科学」を歴史的文脈から理解するための見取り図(試案)



歴史的視点から見た「人間科学とは何か」という問いにたいする1つの答え

人間科学(human sciences)とは、「19世紀科学革命」による学問の専門分化と制度化(学会の設立と大学における講座の開設等)とともに誕生した「心理学」・「社会学」・「人類学」等からなる一連の学問の集合である。

「17世紀科学革命」 “science” の確立

フランシス・ベーコンの「実験哲学」と「帰納推論」の精錬

デカルトの「機械論哲学」と「心身二元論」

ホブスの「人間機械論(人間本性論)」

ニュートンの『プリンピキア』(1687)に象徴される「機械論的・決定論的世界像」=強固な「因果律」によって支配された世界

18世紀における「人間の科学」と「人間学」の誕生

ヒューム「人間の科学」

- ニュートン主義者
- 人間が自然本性としていただく「因果的認識」への懐疑(神の存在への懐疑)
- 「蓋然性(確率)論」の展開
- 「理性は情念(感情)の奴隷である」とする理性主義批判
- 動物の理性と情念(共感)の認知
- 神への信仰や理性ではなく、情念(感情)に基づく「社会秩序形成(道徳)」の可能性の探究(「道徳感情論」はアダム・スミスに受け継がれた)

カント「人間学」

- 初期の自然科学の研究は、ニュートンから決定的な影響を受けている
- ヒュームによって破壊された「形而上学」の再構築が課題(=『純粋理性批判』の執筆動機)
- 「経験的心理学」への批判: 経験的心理学が「自然科学」ではない理由
 - ・人間の内的感覚の現象やその法則に数学が適用できない
 - ・観察という行為自体が観察対象の心の状態をゆがめてしまう
- 「人間学」と「人類学」が未分化
 - 『自然地理学』における「人類学」の展開

「19世紀科学革命」
学問の専門分化と制度化
“science” から
“sciences” へ

ヒュームの「人間の科学」からアダム・スミスの「政治経済学」へ

サン・シモンの「人間の科学」からオーギュスト・コントの「社会物理学」・「社会学」へ

カントの「経験的心理学」批判とフェヒナーの「精神物理学」・ブントの「実験心理学」

カントの「人間学」と「人類学」:「博物学」の変容

人間科学が取り組むべき現代的諸問題

「人間と機械」に関する問題群

- ◆生成系AI(ChatGPT)の功罪(機械の知性と人間の知性の共通点と差異)
- ◆サイボーグ技術(人工臓器)の発展によって生ずる「人間の境界」(人間像)の変容:ポストヒューマン論
- ◆フーコーが『言葉と物』において提起した「人間の終焉」というテーマの継承

「人間と動物」に関する問題群

- ◆戦後日本の「霊長類学」が提起した「人間と動物との連続性」の問題:動物の社会性に関する議論
- ◆「社会生物学」論争
- ◆見田宗介の「動物社会学」(「社会学」を「人間科学」の視点から刷新する)

「人間科学概論」のミッション

👉 人間を総合的に理解するための具体的方法を示す

01

現代的な諸問題に取り組むためには、「文系」・「理系」という固定的な観念から脱却し、人間科学の組織に固有の個別科学間の連携システムが有効であることを示す。

02

人間科学史と個別科学史との接点を明らかにすることを通して、人間を個別科学の視点で考察することと、総合的に理解することの意味の違いを明らかにする。

03

ルネサンス期の人間像から現代にいたるまでの「人間像の変容」を明らかにするとともに、「ポスト・ヒューマン」の問題群を的確に説明する。



**ご清聴ありがとうございました。
質問等は下記までお願い致します。**

常磐大学 人間科学部 現代社会学科
長谷川幸一

〒310-8585 茨城県水戸市見和1-430-1

029-232-2511(代表)

029-232-2693(研究室直通)

hasegawa@tokiwa.ac.jp (研究室)

kouhasegawa@nifty.com (自宅)



自著文献

- 長谷川幸一, 2006, 『人間諸科学の形成と制度化——社会諸科学との比較研究』 東信堂.
- , 2022, 「人間科学の歴史序説（1）——人文学・人間の科学・人間学（人類学）・人間科学：人間に関する学問の変容」 常磐大学人間科学部紀要『人間科学』 40(1): 11-29.
- , 2023a, 「戦後日本における『人間科学』の曖昧さ——文献と組織の検討」 常磐大学人間科学部紀要『人間科学』 40(2): 1-22.
- , 2023b, 「人間科学の歴史序説（2）——19世紀における『人間の科学』・『人間学』から『政治経済学』・『社会学』・『心理学』・『人類学』への専門分化と制度化」 常磐大学人間科学部紀要『人間科学』 41(1): 15-30.
- (以下, 掲載予定論文)
- , 2024, 「人間科学の歴史序説（3）——構造主義とシステム理論：20世紀中葉における新たな総合の試み」 常磐大学人間科学部紀要『人間科学』 41(2).

参考文献

- Foucault, M., 1966, *Les mots et les choses : Une archéologie des sciences humaines*, Paris : Gallimard. (渡辺一民・佐々木明訳, 1974, 『言葉と物——人文科学の考古学』新潮社.)
- 京都大学人文科学研究所, 2023, 京都大学人文科学研究所ホームページ, (2023年11月12日取得, <https://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/>).
- 九州大学大学院人文科学府, 2023, 九州大学大学院人文科学府ホームページ, (2023年11月12日取得, <https://www2.lit.kyushu-u.ac.jp/en/>).
- 文部科学省, 2005, 「学科系統分類表」, 文部科学省ホームページ, (2023年11月17日取得, https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/05122201/006/004/011.htm).
- 文部科学省研究振興局学術研究助成課, 2009, 「系・分野・分科・細目表」, 文部科学省ホームページ, (2023年11月17日取得, https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/attach/1337808.htm).
- 野家啓一, 2008, 『パラダイム革命——クーンの科学史革命』講談社.
- 隠岐さや香, 2018, 『文系と理系はなぜ分かれたのか』星海社.
- 清水一彦, 1999, 『平成の大学改革を斬る』協同出版.
- 飛田良文, [2002]2019, 『明治生まれの日本語』角川書店.
- 徳永恂, 1989, 「人間科学とは何だろうか——ゆらぎの中での自己反省と自己組織化」『大阪大学人間科学部紀要』15: 1-19.